2024年度１Q
決算説明資料

2024年８月６日

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

１Q（4-6月）決算ダイジェスト

- 百貨店事業が業績を牽引し、連結では総額売上高、営業利益ともに予想を上回って推移
  総額売上高、営業利益以下の各段階利益が１Qで過去最高

- 百貨店事業は国内売上が安定的に推移、インバウンド売上の急伸もあり
  総額売上高、営業利益ともに対前年、予想を上回る

- 食品事業は増収減益。食品スーパーは客単価が前年並み、
  客数堅調で既存店売上高は前年超えも、人件費増により減益

- 上期・通期見通しを上方修正
  百貨店事業で１Q実績を織り込み、営業利益を30億円上方修正

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

先ず、今回の１Qの決算ダイジェストです。
連結業績は、百貨店事業が業績を牽引し、総額売上高、営業利益ともに予想を上回り好調に推移し、
総額売上高、営業利益、経常利益、純利益が１Qで過去最高となりました。

百貨店事業は国内売上が前年を安定的に上回り、インバウンド売上が大きく伸長したことで総額売上高、営業利益ともに前年、予想を上回りました。

食品事業は、食品スーパーの客単価が前年並みとなり客数は堅調になったことで既存店売上は前年超えとなりましたが人件費増により減益となり、全体でも増収減益となりました。

以上の結果から、上期と通期の業績見通しを上方修正いたしました。
百貨店事業の１Q実績を織り込んで、営業利益を30億円上方修正しております。

次のスライドからそれぞれについて、ご説明いたします。

Topics

Ⅰ．2024年度 １Q実績

Ⅱ．2024年度 通期見通し（上方修正）

Ⅲ．中期経営計画進捗

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

ここからは「2024年度 １Q実績」、「2024年度 通期見通し」、「中期経営計画進捗」の順にご説明いたします。

Ⅰ. 2024年度 １Q実績

１．連結業績

２．セグメント別業績

３．百貨店事業

４．食品事業

５．商業施設事業

６．特別利益・特別損失

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

１Q実績について、スライドの順にご説明いたします。

Ⅰ-1. 連結業績

- ▶ 好調な百貨店事業の売上増が寄与し、総額売上高・営業利益以下の各段階利益は１Ｑで過去最高
- ▶ 政策保有株式売却、子会社株式の段階取得に係る差益等の特別利益計上もあり、四半期純利益は大幅に増加

（単位：億円）	１Ｑ（4-6月） 本年	前年増減率	前年増減額
総額売上高	2,764	+13.0%	+317
売上高	1,619	+4.6%	+71
営業利益	93	+94.7%	+45
経常利益	102	+96.4%	+50
特別利益	248		
特別損失	2		
親会社株主に帰属する四半期純利益	265	+685.0%	+231

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

連結業績についてご説明いたします。

好調な百貨店事業が牽引し、売上高・営業利益以下全ての段階利益が１Ｑで過去最高となりました。

政策保有株式の売却、子会社株式の段階取得に係る差益等、特別利益248億円の計上もあり、四半期純利益は前年から大きく増加しました。

Ⅰ-2. セグメント別業績

- ▶ 百貨店事業は総額売上高・営業利益ともに１Qで過去最高
- ▶ 期初予想に対し百貨店事業が大きく上振れ、食品事業、商業施設事業、その他事業は概ね想定通りに推移

（単位：億円）	総額売上高		営業利益		
	本年	前年増減率	本年	前年増減率	前年増減額
百貨店	1,554	+25.8%	80	+170.3%	+50
食品	1,034	+0.3%	15	▲5.8%	▲1
商業施設	82	+1.8%	13	+46.8%	+4
その他	94	▲6.3%	66	+204.1%	+44 うち、H2O +46
連結調整			▲82	−	▲53
合計	2,764	+13.0%	93	+94.7%	+45

*2025年３月期からのグループ本社費計上区分の見直しに伴い、営業外費用に計上していたグループ本社費を販売費及び一般管理費に組み換え、各セグメント利益に反映、連結全体の営業利益は変化なし

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

セグメント別業績については、ご覧のスライドの通りです。

１Qの予想は開示していませんが、営業利益については百貨店事業が予想から大きく上振れ、食品事業・商業施設事業・その他事業は概ね想定通りに推移しています。

その他セグメントで44億円と大幅な増益になっていますが、親会社であるH2Oが子会社からの配当増加に伴い46億円の増益となっており、セグメント間での取引となるため連結では消去となります。

Ⅰ-3. 百貨店事業-業績概要

▶ 堅調な国内売上、急伸するインバウンド売上を背景に阪急本店を中心とする都心店が好調に推移

（単位：億円）	1Q（4-6月） 本年	前年増減率	前年増減額
総額売上高	1,554	+25.8%	+319
売上高	457	+19.6%	+75
売上総利益	338	+23.5%	+64
販管費	259	+5.8%	+14
営業利益	80	+170.3%	+50

店別売上	前年増減率
都心店	+31%
阪急本店	+38%
博多阪急	+31%
郊外店	+1%

（単位：億円）

販管費増減内訳	前年増減額
売上連動経費	+13
賞与等	+5
水光熱費	▲2

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

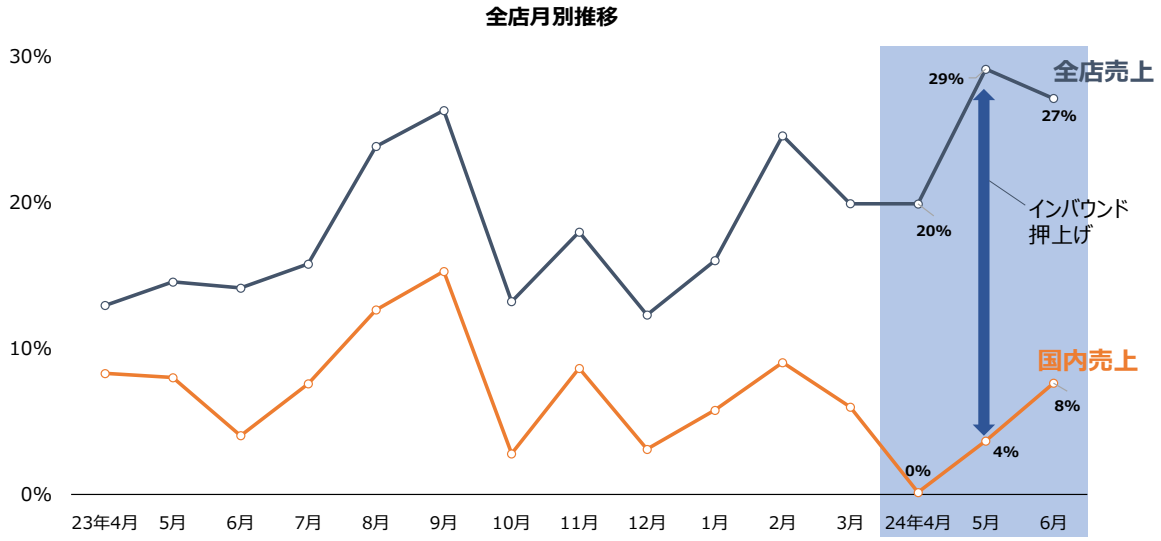
百貨店事業の業績について説明いたします。

前年度から引き続き、国内売上は堅調に推移し、インバウンド売上の伸長が加速しました。

結果として右側の店舗売上の表にあるように阪急本店を中心とする都心店が好調に推移し、総額売上高、営業利益ともに前年実績、予想ともに上回りました。

Ⅰ-3. 百貨店事業ー全店売上高推移（前年増減比）

- ▶ 月によりバラつきはあるものの国内売上は引き続き堅調、ほぼ想定通りに推移
- ▶ インバウンドの急伸が全店売上を押上げており、7月以降も同様の傾向を想定の一方で、前年実績が月を追うごとに拡大しており、前年からの増分は徐々に縮小の見通し



Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

百貨店の全店売上と国内売上の前年度対比の推移についてご説明いたします。

グラフは、全店売上と国内売上に分けて記載しています。
青色が全店売上、オレンジ色が国内売上です。

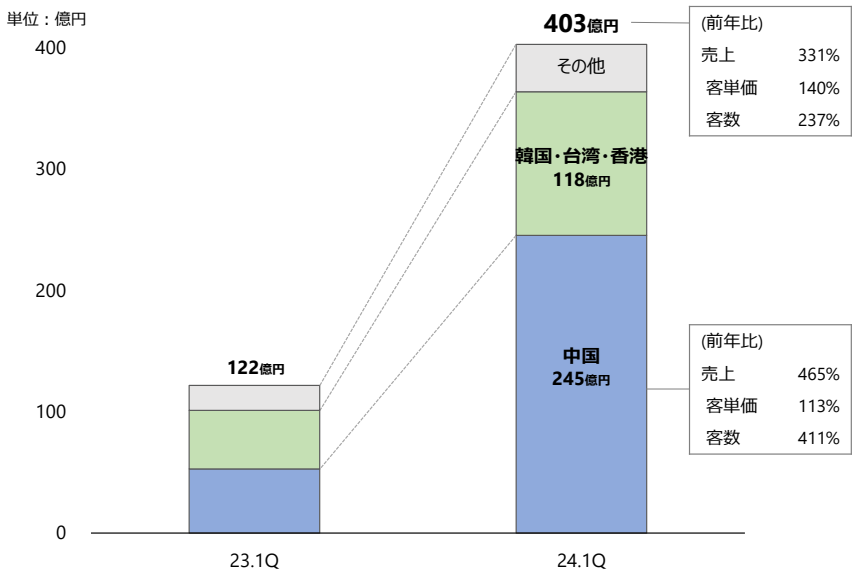
ご覧のように、オレンジ色の国内売上は23年度から引き続き安定して前年度を超えて堅調な推移を示しており、概ね想定通りの推移となっております。

全店売上は好調なインバウンド売上が押上げており、7月以降も同様の傾向を想定しております。

一方で前年の7月以降は月を追うごとにインバウンド売上が伸長していたため、今後の全店売上、インバウンド売上の前年からの伸びは徐々に縮小すると見込みです。

Ⅰ-3. 百貨店事業ーインバウンド売上

▶ 5月の「労働節」もあり、中国人向け売上が前年の4.5倍超となりインバウンド全体でも大幅に拡大



Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

インバウンド売上の詳細についてご説明いたします。

1Q実績は400億円となり、前年の3.3倍と大きく伸長しました。

免税売上の伸長を牽引したのは、中国人向け売上であり期間計で前年から4.5倍超となりました。
5月の労働節で増えた中国人客数はその後も高い水準を維持しております。

前年度大きく伸長した韓国・台湾・香港は今年度も引き続き高い水準で推移しております。

Ⅰ-4. 食品事業

- ▶ 食品スーパーは売上が横ばい、賃金制度変更による人件費増もあり減益
- ▶ 食品スーパーは客単価が前年並み、客数回復により既存店売上が前年を上回って推移
  イズミヤ・阪急オアシスは増益も売上は計画未達
  関西スーパーは前年好調の反動もあり減益となるもほぼ想定通りの進捗
- ▶ 食品製造・宅配は減収増益となり、セグメント全体では増収減益

セグメント（単位：億円）	1Q（4-6月）		
	本年	前年増減率	前年増減額
総額売上高	1,034	+0.3%	+3
営業利益	15	▲5.8%	▲1

個社別（単位：億円）	総額売上高			営業利益		
	本年	前年増減率	前年増減額	本年	前年増減率	前年増減額
イズミヤ・阪急オアシス	645	+0.3% 既存店 +1.1%	+2	11	+1.5%	+0
関西スーパーマーケット	325	▲0.4% 既存店 +0.4%	▲1	6	▲19.3%	▲1
食品製造 / 宅配	93	▲4.7%	▲5	▲2	―	+0

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

次に食品事業についてご説明いたします。
食品スーパーの売上は横ばいでしたが、前年10月に実施したイズミヤ・阪急オアシスの賃金制度変更に伴う人件費の増加もあり減益となりました。

値上げの一巡により客単価が前年並みとなったものの、客数が回復したことでイズミヤ・阪急オアシス、関西スーパーマーケットともに既存店売上高が前年を上回りました。

個社別の業績としては、イズミヤ阪急オアシスは増益となるものの売上は予想未達となりました。
関西スーパーマーケットは前年の好調な業績の反動により減益となったものの、ほぼ会社予想通りの推移となっております。

Ⅰ-5. 商業施設事業

- ▶ 大井開発が運営するビジネスホテルは高稼働率（95%超）を維持し、増収増益
- ▶ SC店舗はテナント売上が好調に推移

セグメント （単位：億円）	1Q（4-6月）		
	本年	前年増減比	前年増減額
総額売上高	82	+1.8%	+1
営業利益	13	+46.8%	+4

個社別 (単位：億円)	総額売上高			営業利益		
	本年	前年増減比	前年増減額	本年	前年増減比	前年増減額
大井開発	17	+19.5%	+3	8	+35.1%	+2
H2O商業開発	61	▲4.5%	▲3	3	+17.5%	+0
阪急商業開発	13	+11.5%	+1	2	+63.4%	+1

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

次に商業施設事業についてご説明いたします。

大井開発は大井町で運営するビジネスホテルの稼働率が95%を超えて進捗、客室単価も前年から上昇しており、引き続き好調に推移しております。

ショッピングセンターを運営するH2O商業開発は店舗の減少、衣料品の苦戦もあったもののテナント売上が好調に推移、阪急商業開発も同じくテナント売上が好調に推移し増益となり、セグメント全体で増収増益となりました。

Ⅰ-6. 特別利益･特別損失

(単位：億円)	主な項目	金額	主な内容
特別利益		**248**	
	投資有価証券売却益	**142**	東宝株式売却
	段階取得に係る差益	**80**	寧波開発株式
	固定資産売却益	**26**	関西スーパーマーケット旧福島店 H2O商業開発 商品センター
特別損失	固定資産除却損	**2**	阪急阪神百貨店

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

特別利益・特別損失については、ご覧の通りですが１Ｑで東宝株式の売却益、寧波阪急の子会社化に伴う段階取得に係る差益を計上しております。

業績の説明に関しては以上となります。

Ⅱ. 2024年度 通期見通し（上方修正）

▶ １Q業績の好調を受け、上期・通期予想を上方修正
２Q以降は期初予想を据え置き

▶ 配当は前年度の28円から40円へ増配（期初予想から変更なし）

（単位：億円）	上期 予想	上期 前年増減	上期 期初増減	下期 予想	下期 前年増減	下期 期初増減	通期 予想	通期 前年増減	通期 期初増減
総額売上高	5,680	+12.4%	+125	6,070	+6.7%	–	11,750	+9.4%	+125
売上高	3,410	+7.0%	+20	3,610	+6.5%	–	7,020	+6.8%	+20
営業利益	136	+37	+30	159	▲4	–	295	+33	+30
経常利益	138	+31	+35	162	▲10	–	300	+21	+35
特別利益	248			0			248		
特別損失	17			58			75		
親会社株主に帰属する当期純利益	254	+191	+40	46	▲110	–	300	+81	+40

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

最後に、2024年度の通期見通しについてご説明いたします。

１Q業績の進捗から、上期・通期予想を上方修正いたしました。
１Qの上振れを上乗せし、２Q以降は期初予想を据え置きとしております。

配当に関しては、期初予想から変更はございません。

Ⅱ. 2024年度 通期見通し（上方修正）

- ▶ １Q業績の好調を受け、百貨店事業の総額売上高・営業利益を上方修正
- ▶ 百貨店事業以外は概ね期初予想通りに推移、期初予想を据え置き

(単位：億円)	総額売上高		営業利益		
	予想	前年増減率	予想	前年増減額	期初増減
百貨店事業	6,267	+8.6%	255	+59	+32
食品事業	4,449	+4.5%	98	+27	–
商業施設事業	380	+18.4%	33	+1	–
その他事業	655	+67.6%	▲3	▲3	–
連結調整			▲88	▲51	▲2
合計	11,750	+9.4%	295	+33	+30

*2025年３月期からのグループ本社費計上区分の見直しに伴い、営業外費用に計上していたグループ本社費を販売費及び一般管理費に組み換え、各セグメント利益に反映、連結全体の営業利益は変化なし

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

セグメント別の業績見通しはこちらのスライドの通りです。

１Q業績の進捗から、百貨店事業の総額売上高、営業利益を上方修正いたしました。
百貨店事業以外のセグメントは期初予想通りに進捗しているため据え置きといたしました。

通期見通しの説明については以上です。

Ⅲ. 中期経営計画進捗

▶ ３つの方針を軸とし、長期事業構想2030の実現に向け人事・組織面を支える人材戦略に着手
①組織パフォーマンス最適化 ②従業員エンゲージメント活性化 ③人事インフラの強化

■ 組織・人事体制

- ビジョン実現に向け、2025年度から百貨店の人事制度を改定
  会社が求めるスキル・価値観に応じたキャリアコースを提示、従業員の意思を軸に配置、専門スキルの構築と個人の役割・スキルを明確化
  従業員の自律的な働き方、高いモチベーション醸成に向け、成果型の評価制度の導入と新卒・若手社員の人材育成コースを新設
- 海外・国内富裕層拡大に向け、海外・国内顧客に分けて組織を新設
- 食品スーパーのシナジー効果追求に向けた事務所集約
  イズミヤ・阪急オアシスと関西スーパーマーケットの管理部門を関西スーパー本社のある伊丹へ集約

■ 海外富裕層獲得に向けた具体的な取り組み

- ハワイ州産業経済開発観光局（DBEDT）と連携協定を締結
  国内・インバウンドともに人気の催事強化、現地商材の消費者調査など
- La Ditta Singapore と連携協定を締結
  高付加価値の日本産食品や飲料を共同開発し、販路も確保
- 海外VIPアテンドスタッフを増強
- 韓国決済額首位の現代カードと連携

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

最後に中期経営計画の進捗についてご説明いたします。

５月に公表した中期経営計画ですが、長期事業構想2030実現に向け、コミュニケーションリテイラーへの変革の要である人材戦略から着手しております。

組織・人事体制としては、百貨店で来期からスタートする新たな人事制度導入を進めております。

また阪急本店のグローバルデパートメントストア化に向けた国内外の富裕層拡大については、従来富裕層対応で一つの組織としていましたが、組織を海外・国内顧客に分けて取り組みを加速させています。
具体的には下に記載しております、外部との連携強化やアテンドスタッフの50人規模への拡大などに着手しています。

また、食品事業では７月末に関西フードマーケットを完全子会社としており、食品スーパーのさらなるシナジー効果追及を目指し、イズミヤ・阪急オアシスと関西スーパーマーケットの管理部門と営業部門を集約いたしました。

Ⅲ. 中期経営計画進捗（資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて）

▶ 中期経営計画（2024年5月開示）の資本・財務戦略で掲げたROE目標達成に向け、
低収益資産を売却し事業投資を実行

■ **非事業資産の売却によるキャッシュイン**
- 東宝株式売却174億円
- 不動産売却 56億円

■ **自己株式取得（2024年5月）**
- 242億円の自己株式取得を実施
  関西フードマーケット完全子会社化の株式交換分に充当

■ **関西フードマーケット完全子会社化**
- 2024年7月末に完全子会社化が完了、今後は一体経営の加速とシナジーの最大化に着手

安定的にPBR1.2倍超となるよう、引き続き事業戦略の遂行と資本・財務戦略の積極推進により企業価値の向上に取り組む

Copyright © H2O Retailing Corp. All Rights Reserved.

中期経営計画で掲げたROE目標達成に向け、１Ｑで低収益資産の売却、関西フードマーケットの完全子会社化を実行しました。

取り組みはスライドに記載の通りですが、今後も中期経営計画で掲げた事業戦略を遂行し、
資本・財務戦略を着実に推進していくことで安定的にPBR1.2倍を超える水準となるよう企業価値向上に取り組んでいきます。

私からの説明は以上です。
ありがとうございました。